

〔曲名〕 浜辺の唄

〔曲種〕

〔作曲者〕 成田為三

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

作曲者成田為三（1893－1945）は鈴木三重吉提唱の童謡運動に参加し「歌を忘れたカナリヤ」で一躍脚光を浴びた作曲家。

数多の叙情歌曲があるが本曲浜辺の唄が最も著名。

林古溪の作詞で大正7年（1918）10月竹久夢二の装幀でセノオ楽譜として出版された。

あした浜辺を さまよえば

昔のことぞしのぼるる。

風の音よ 雲のさまよ

よする波も かいの色も。

ゆうべ浜辺を もとおれば（徘徊すれば）

昔の人ぞ忍ばるる。

寄する波よ かえず波よ

月の色も 星のかけも。

筆者のマンドリン合奏への編曲も可成り古く沢口氏のアルモニアで出版を見た。

第二次世界大戦も漸く酣（たけなわ）になろうとした頃筆者は名古屋放送合唱団を率いて北陸に演奏に出かけ飛騨を縦断した時、

各部落の民謡民舞を見学したお礼に必ず本曲を歌って交歓した思い出深いもの。

山に来て浜辺の唄を歌いけり。

とはその時誰かが作ったものであるが、その時のメンバー未だ健在なりや否や。

イタリアマンドリン百曲選別冊 日本の郷愁（1）より

1972年2月1日発行